

令和6年10月30日

大河原町議会議長 岡 崎 隆 殿

文教厚生常任委員会
委員長 佐藤 巖



所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、調査中の案件について下記のとおり調査を終了したので、大河原町議会会議規則第76条の規定により報告いたします。

記

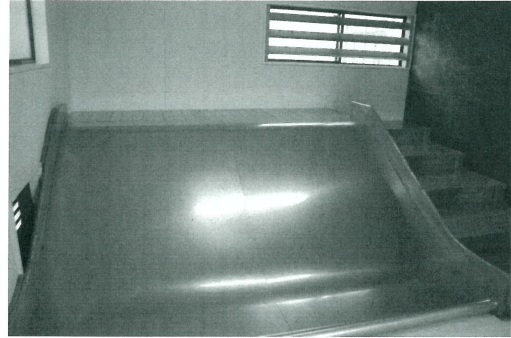
1. 開催の日時 令和 6年10月24日(木)
 10時00分から11時50分
2. 開催の場所 視察：小規模保育施設「ふくふく」
 上谷児童館
 説明：庁舎委員会室
3. 出欠委員の氏名 佐藤 巖 大沼 常次 秋山 昇
 出席委員 丸山勝利 中村 淳 佐藤 暁史

 欠席委員 山崎 剛
4. 説明のため出席 子ども家庭課 課長 齋藤 直美
 した者の職氏名 課長補佐 吉野 博美
5. 議会事務局の出 議会事務局長 木村 武俊
 席職員の職氏名 同 局長補佐 大島 奈緒美
 同 主事 佐藤 邦彦
6. 所管事務の調査事項
 (1) 町内小規模保育施設の視察とみらい子育てネットの活動について
 (2) 小規模保育施設の現状と課題について



7. 調査の内容

(1) 小規模保育施設「ふくふく」の視察



定員 12名

現入所者数 0歳児2名、1歳児3名、2歳児8名 計13名

職員数 保育士5名、園長、事務長、補助員1名、調理員1名 計9名

職員から

- 1 子どもたちを近くの公園に連れていくことがあるが、小さい子どもに適した遊具がない。また遊具が使用禁止になっていることが多く、改善できたらいいと思っている。
- 2 施設の運営費は町からの給付金で賄っている。その給付金は預かっている子どもの人数によって決まるので、その人数の多寡によって経営が左右されるので厳しい。

(2) みらい子育てネット（七草クラブ）の活動について

- ① 上谷児童館だけでなく、町内で要請があればどこでも活動している。
- ② 人形劇（1時間程度）の公演を行っている。
- ③ 町内の通学路に「ストップマーク（足形のマーク）」を設置している。
- ④ 新1年生に交通安全のための手作りマスコットお守りを進呈している。
- ⑤ 公園の点検
- ⑥ 大河原南小学校入口の上り坂の清掃活動

現在の会員は13名

質疑

Q 町への要望はあるか。

A 人形劇を行うための道具を保管しておく場所が欲しい。現在は地方市場に一時保管させてもらっているが、場所が離れており不便である。

Q 活動に対する町からの補助金はあるのか。

A 年間15万1000円補助してもらっている。

七草クラブから

クラブの活動の中に「公園の点検」があるが、クラブでは遊具の点検だけでなく、公園の防犯等の視点も含めて行っている。遊具の点検については、町、民生委員等も行っており、一緒に活動した方が合理的だと思い、



他の団体に進言したら断られた経緯がある。

Q 児童館の職員は足りているか。

A 問題はない。

Q 児童館の学年別内訳は。

A 南小の1年生は31名だが、その内17名が児童館に来ている。4年生まで来られるが、4年生ぐらいになると4名しか来ていない。

Q 母親の立場から「少子化対策」「子育て支援」をどのように感じているか。

A お金を配ることより、手のかかる乳幼児期に親が休みを取りやすく、また、預けやすいところを増やすことが大事だと思う。

Q 児童館に来ている子どもたちの様子や親の養育について感じることは。

A 子ども自身の問題だけでなく、むしろ親側の問題が子どもに影響を及ぼしていることが多いように感じる。そういったことに対して、小学校とは連絡を密にして情報交換している。

七草クラブの会員より

- 子どもが感染症や病気になったりすると、親が働けなくなってしまう。一時的にそういった子どもを見てくれる施設等があったらいいと思う。
- 施設はあるが有料になるため、お金を払える親しか利用できない現実がある。(上記の意見に対して)
- 年頃の子どもの話を聞いていると、結婚して子どもを産むことが大人の一つの義務みたいなことが薄れてきているように感じている。価値観が変わったという事なのだろうか。

(3) 町内の小規模保育施設の現状と課題について

【子ども家庭課説明】

■ 小規模保育施設とは

0歳～2歳までの子どもを対象とした小規模保育施設で定員は6人以上19人以下になっている。また、保育環境や運営、給食の提供など一定の基準を満たす必要があり、町が認可し「地域型保育給付費」を支給している。

※給付負担割合 国 1/2、県 1/4、町 1/4

■ 小規模保育の特徴

「子どもと保育士」「子ども同士」「保育士と保護者」など、さまざまな人が親密なコミュニケーションを取れることができる。定員が少ないために子どもに対して目が届きやすい。

■ 町内の小規模保育事業所

型	事業所名	入所者数	職員数	職員資格	保育室等	給食
A型	キッズフィールド おおがわら園	13名	8名	保育士5名 園長、給食2名	0歳～1歳 一人当たり	自前給食
A型	キッズフィールド フォルテ園	19名	9名	保育士6名 園長、給食2名	3.3㎡ 2歳児は一人当たり	
A型	キッズフィールド 大河原駅前園	13名	8名	保育士5名 園長、給食2名	1.98㎡	
A型	ふくふく	13名	8名	保育士5名 園長、事務長、 給食1名	0歳～2歳児 一人当たり 3.3㎡	

※職員配置基準 0歳児は3名に1名、1歳児は6名に1名、2歳児は6名に1名

① 小規模保育施設の現況と課題

待機児童数は0名である。保留となっている児童は13名(10/1現在)いるが希望園の調整、育休延長によるもの等であり、緊急を要するものは入所できる状況にある。

課題としては、3歳になったら別の保育園に転園しなければならないので、その調整に難しさがある。また、4月当初は入所児童数が少ないため、町からの給付金が少ないので経営が厳しい。

② 質疑

Q 施設型にはA型、B型、C型とあるが、その違いは何か。

A 子どもの人数に応じた職員数や保育室の広さの基準があり、それによって型が決められている。

Q 事業所にはどれぐらいの給付金が支給されているのか。

A 4つの事業所に合計で1億5千万円の給付をしている。

Q 事業所では給食があるようだが、どのようになっているのか。

A 全て年齢に応じた給食を自園で行っている。なお、その給食に係る経費は保育料の中に入っている。

Q 七草クラブの方から話があった人形劇の備品の保管場所について、近所の空き家を利用することも考えられるのではないかな。

A 検討してみたいと思います。

Q 七草クラブさんから話があった公園の安全点検について、いろいろな機関や団体がそれぞれの目的で実施しているとはいえ、もっと合理化できるのではないかなと思う。

A 公園を所管している地域整備課とも相談しながら検討していきたい。

8 まとめ

- (1) 小規模保育事業所への町からの給付金については、事業所の経営が安定していないと充実した保育活動ができないので、今後、その方策について検討すべき事項である。
- (2) 上谷児童館を活動拠点としているボランティア団体、七草クラブが活動するために必要な備品置き場の確保については、役場の方で検討すべき事項である。